

# 名瀬港

名瀬港は、奄美群島最大の島である奄美大島の北西部に位置し、古くから鹿児島本土をはじめ南方諸国との貿易港として利用されてきた歴史を持ち、鹿児島、大阪、神戸、沖縄への定期航路が就航する海上交通の重要な拠点となっています。

奄美群島民の生活を支える物資の流通拠点、島内外の人々の交流拠点として、また、世界自然遺産の島としてクルーズ船などによる観光振興など重要な役割を果たしています。



イメージバス

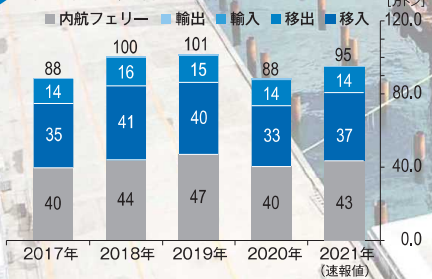
本港地区の老朽化の著しい岸壁(水深7.5m)を耐震改良することにより、大規模地震時に機能確保できます。また、荷役スペース拡大によるフェリーの荷役作業の安全性向上、乗降客の安全性の確保を図り、島内住民への安定的な生活物資の供給が可能となります。

立神地区の防波堤(沖)により名瀬港内では港内静穏度が確保されることで船舶の安全な接岸・係留・操船が可能となっており、旅客の乗降や荷役作業の安全・安心に寄与しています。  
平成30年9月に発生した台風24号による被害を受けたため、災害復旧工事と再度災害防止のための補強を実施しました。

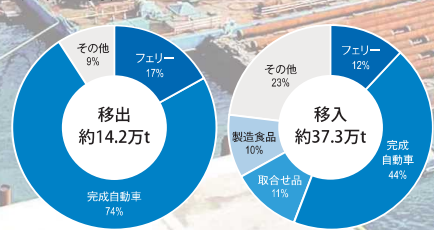
災害復旧  
PR動画 公開中



## 取り扱い貨物量の推移



## 貨物量内訳



資料) 港湾統計(年報)「国土交通省」

# 港の安全・安心を守る